

報告

若手の天文〇〇を聞いてみよう！開催報告

高橋幹弥（筑波大学）、松岡義一（本会一般普及分野）、
反保雄介（京都大学）、鈴木雄大（東京大学）

1. はじめに

本稿は、2021年12月17日（第1回）と2022年5月6日（第2回）に行われたトークイベント「若手の天文〇〇を聞いてみよう！」の開催報告である。第1回では3名、第2回では2名の若手会員が講演を行い、各回とも約30～40名の方に参加いただいた。

2. 企画の概要

2.1 開催の経緯

本企画は、一般普及分野の代議員を務める松岡の発案を受け、若手天文教育普及ワーキンググループと一般普及分野の主催で企画・実施した。本企画の目的は、天文教育普及に関わる若手個人の活動に焦点を当て、彼らの活動を気軽に話す・聞く場を設けることで、幅広い分野・年齢層の交流・コラボレーションを生み出すことである。気軽なコミュニケーションを重要視していることから、学術的な研究活動や教育活動に限らず、趣味やボランティアでの活動も対象となる。講演する若手にとっては、自身の活動をアピールできることや、気軽に発表の経験を積むことができることがメリットとして挙げられる。一方、参加者にとっては、普段交流の機会を持つことが少ない若手の活動を知ることや、参加者自身の活動と若手とのコラボレーションのきっかけを作ることがメリットとして挙げられる。また、若手参加者にとっては、自身のロールモデルを見つけることができることもメリットである。

2.2 テーマと講演者の検討

各回のテーマは、著者らを中心とする若手

天文教育普及ワーキンググループおよび松岡で検討した。第1回では「研究」（自然科学的な視点からの研究）、第2回では「様々な視点からの研究」をテーマに設定した。テーマ設定では、若手の活動をアピールしやすいテーマであることや、自然科学に限らない天文学の幅広い可能性を踏まえたテーマであること、より若い中高生や大学学部生の進路選択などにも役立ててもらおうことなどを念頭に置いて検討した。

2.3 開催形態・告知方法

コロナ禍であることと、気軽に話す・聞くことができるという目的を鑑みて、本企画は各回ともZoomミーティングを用いたオンライン開催とした。

イベントの告知は、日本天文教育普及研究会（以下、天教）・日本プラネタリウム協議会・日本公開天文台協会のメーリングリストで告知したほか、若手天文教育普及ワーキンググループのホームページ[1]およびTwitter[2]でも告知を行った。さらに、各メーリングリストの参加者や若手天文教育普及ワーキンググループのメンバーに情報拡散を呼びかけた。

3. イベントの内容

本イベントは、両回とも講演者によるテーマに沿った発表（1人15分）と、参加者からの質問も交えたパネルトーク（20～40分）の2部構成で行った。その後、より気軽な交流の機会を設けることを目的に、Zoomのブレイクアウトルーム機能を用いて自由参加の懇談会（1時間～2時間）を行った。また、オンライン開催の特性を活かし、講演部分に関

しては、イベント後に若手天文教育普及ワーキンググループの YouTube チャンネル[3]にアップロードし、現在も公開している。以下では、各回の講演内容を簡潔に紹介し、参加者に向けて行ったアンケートの結果も概観する。

3.1 第1回「研究」(2021年12月17日実施)

(1) 講演内容

- ・「院生」として関わる天文教育普及 反保雄介 (京都大学 理学研究科 宇宙物理学教室)
- ・「理論と観測をつなぐ：シミュレーションで探るブラックホールの姿」高橋幹弥 (筑波大学 数理解物質科学研究群 物理学学位プログラム)
- ・「理学と工学の狭間、地球と大気の狭間 ～これが優柔不断男の生きる道～」鈴木雄大 (東京大学 理学研究科 地球惑星科学専攻)

反保の講演では、反保がアマチュア天文学者や高校生と協力して行っている研究に関する話題の紹介がなされた。天文教育普及にチャレンジしたい若手研究者と、最先端の天文学研究に携わりたい市民科学者の双方にメリットが生まれるコラボレーションの一例として多くの参加者が興味を寄せる内容であった。

高橋の講演では、高橋の専門である数値シミュレーションによるブラックホール天文学の目的や近年の研究成果の紹介がなされた。数値シミュレーションの教育普及への活用を視野に入れた活動の提案等もなされた。

鈴木は講演では、鈴木が現在の専門分野である惑星探査を選んだ経緯や、水星に関する近年の研究成果の紹介がなされた。惑星という身近な天体に関して観測・理論・装置開発など多岐にわたる手法を用いて研究を進めていることから、その後の懇親会などでも多くの参加者を巻き込んで盛り上がりを見せていた。

第1回では、テーマや講演の主題が三者三様であり、天文教育普及に限らない話題も多かったため、参加者にとって新鮮な内容を提供できたと考えている。なお、当日の司会は奥雄大郎氏が担当した。

(2) アンケートの結果

第1回の参加者は、学生(学部生・大学院生)・教育関係者・博物館職員など幅広い立場であった。参加者が本イベントをどこで知ったかを示すものが図1である。

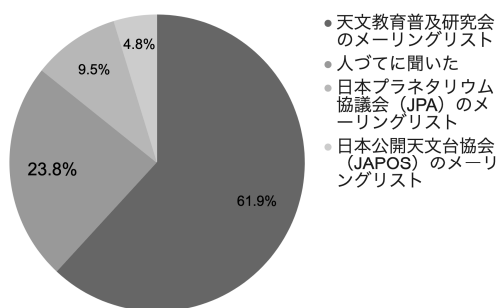


図1 参加者が第1回を知ったきっかけ

図1から、天教のメーリングリストをきっかけに参加した方の割合が最も多いことがわかる。このことから、主な参加者は天教の会員であることが読み取れる。また、第1回ではこれらのメーリングリストの他、若手天文教育普及ワーキンググループのメンバーなどによる情報拡散がきっかけで参加した方(「人づてに聞いた」に該当)が比較的多いことがわかる。

参加した理由についてもアンケートを行った。その結果、参加理由は大きく2種類に分けられた。1つ目は、「若手の活動に興味がある」といった理由である。2つ目は、「研究活動と教育普及活動の両立をしているモデルとして参考にしたい」といった理由である。

第1回のテーマ「研究」については好意的な意見が多く寄せられ、講演に対する参加者の満足度も高かった。その一例として、「普段

聞けない分野の話を知ることができた」や「イベント後の懇談会での交流でも知見が得られた」等のコメントが見られた。

3.2 第2回「様々な視点からの研究」(2022年5月6日実施)

(1) 講演内容

- ・福岡県八女市星野村での天文教育プロジェクトの導入と実施 増尾天佑 (法政大学大学院理工学研究科 田中幹人研究室・学際宇宙ゼミナール)
- ・「観光研究の視点からアストロツーリズムを問い直す」澤田幸輝 (和歌山大学大学院観光学研究科 尾久土研究室)

増尾氏の講演では、氏が学部3年時から取り組んできた星野村での天文教育活動の紹介がなされた。単に天文学の魅力を発信するだけの活動にとどまらず、地域に根ざした独自の天文教育活動を目指されていることが印象的であった。

澤田氏の講演では、氏の専門とする観光学と天文学を絡めたアストロツーリズムに関する興味深い考察がなされた。「風景としての星空を楽しむ」という日本に特有のアストロツーリズム事情に関して、文化研究の視点から基礎研究を行うことのユニークさや重要さが伝わってきた。

第2回では天文教育普及に近い分野の研究活動をテーマとしたため、講演後のパネルトークやイベント後の懇談会では多くの質問や活発な交流を生み出すことができたと考えている。なお、当日の司会を高橋が担当した。

(2) アンケートの結果

第2回の参加者は、学生(学部生・大学院生)・教育関係者・博物館職員など幅広い立場であった。参加者が本イベントをどこで知ったかを示すものが図2である。

図2から、第1回と同様に天教のメーリン

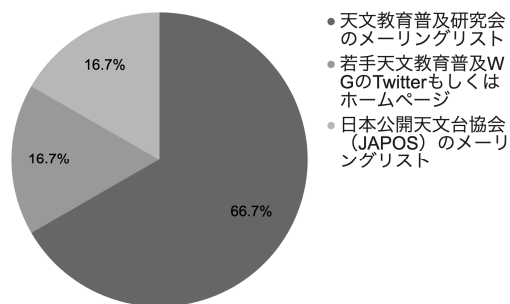


図2 参加者が第2回を知ったきっかけ

グリストをきっかけに参加した人数が最多であり、天教の会員が多く参加していることがわかった。第2回では、各メーリングリストでの告知のほか、若手天文教育普及ワーキンググループのTwitterやホームページでの告知も積極的に行なった。その結果、Twitterもしくはホームページをきっかけに参加した参加者も一定数存在することがわかった。

参加したい理由についても、主に第1回のアンケート結果で挙げた2種類の理由が同様に見られたほか、「現在の普及環境の問題点を知りたいと思ったから」のようにテーマ設定に由来すると思われる参加理由も見てとれた。

第2回のテーマ「様々な視点からの研究」については、第1回と同様に好意的な意見が多く、講演に対する参加者の満足度も高かった。

4. 課題と今後の展望

今後の開催形態や開催規模は未定であるが、本イベントの目的を鑑みると、天文教育普及に関心がない層や、これまでの話者である大学院生よりもさらに若手である大学学部生や中高生への効果的な告知が課題であると考えている。図1、2からもわかる通り、人づてで聞いたことやTwitterでの情報をきっかけに本イベントに参加した方が少なくない。このことから、Twitterをはじめとする各種

SNS での積極的な告知や、会員（特に教育関係者）による宣伝を有効活用していくことが必要であると考えられる。また、このことを達成するためには、テーマ設定やイベントの構成にも再考の余地がある。例えば、アンケートでも関心が見られた宇宙開発など工学系を専門とする若手は、天教会員や若手天文教育普及ワーキンググループメンバーには多くない。そのため、今後は他の全国宇宙系団体とも協力・連携しながらイベントを企画することも、新たな層を呼び込むために重要であると考えられる。

5. おわりに

まず、この場をお借りしてこれまでご参加いただいた皆様に感謝を申し上げる。特に、本会会長である松本直記氏は両回とも参加されており、イベントの最後にコメントをいただくこともできた。

「若手の天文〇〇を聞いてみよう！」は、今後も1年に3回程度の開催を計画している。聞いてみたいテーマや講演者のリクエストは若手天文教育普及ワーキンググループのホームページなどから随時受け付けているため、

問い合わせをいただければ幸いである。皆様には、YouTube で公開している動画もぜひご覧いただくとともに、次回以降もぜひ気軽にご参加いただければ光栄である。

文 献

- [1] 若手天文教育普及ワーキンググループ
ホームページ
<https://wakaten-wg.studio.site/>
- [2] 若手天文教育普及ワーキンググループ
Twitter
https://twitter.com/astro_for_young
- [3] 若手天文教育普及ワーキンググループ
YouTube チャンネル
<https://www.youtube.com/channel/UCFJjqBLBBNgfW7oCgOhNhWw>



高橋幹弥

* * * * *